

## 10 海洋プラスチックごみ問題への取組

### (1) 国際的な取組（我が国のイニシアチブ）

#### ア G20 大阪サミット「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」

令和元年（2019）年6月15日及び16日に、長野県軽井沢町で「G20 持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合」が開催されました。[1]イノベーションの加速化による環境と成長の好循環、[2]資源効率性・海洋プラスチックごみ、[3]生態系を基盤とするアプローチを含む適応と強靱なインフラについて議論を行い、成果文書として、議論の内容をまとめた声明及びその付属文書を20か国・地域の同意により採択しました。



インド ムンバイのベルソナビーチの様子  
川や海に流れ込んでしまうプラスチックごみは、  
世界全体で毎年 1,300 万トンに上る@UNEP-UNIP

この会合では、我が国が主導する形で、新興国・途上国も参加し、各国が自主的な対策を実施し、その取組を継続的に報告・共有する実効性のある新しい枠組である「G20 海洋プラスチックごみ対策実施枠組」に合意しました。また、資源効率性

に関しては、G20 資源効率性対話における取組を評価し、日本が議長国を務める同対話の会合で、同対話のロードマップを作成することに合意しました。

さらに、6月28日及び29日には大阪市で、G20 大阪サミットが開催されました。本会合の成果物として、「G20 大阪首脳宣言」が採択され、20か国が一致して、「環境と成長の好循環」がイノベーションを通じて行われるパラダイム・シフト（考え方や概念の変更）が必要とされていること等が確認されました。海洋プラスチックごみに関しては、2050年までに追加的な汚染をゼロにまで削減することを目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」をG20 首脳間で共有し、軽井沢で行われた閣僚会合で策定した「G20 海洋プラスチックごみ対策実施枠組」を支持するものとなりました。また、



G20 大阪サミット議長国記者会見で  
話す安倍内閣総理大臣  
出典：首相官邸ホームページ<sup>6</sup>

<sup>6</sup> 「首相官邸ホームページ G20 大阪サミット -2 日目-」  
[https://www.kantei.go.jp/jp/98\\_abe/actions/201906/29g20.html](https://www.kantei.go.jp/jp/98_abe/actions/201906/29g20.html)

安倍内閣総理大臣は、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の実現に向け、途上国の廃棄物管理に関する能力構築及びインフラ整備等を支援する「マリーン・イニシアティブ」を表明しました。

## イ G20 資源効率性対話・G20 海洋プラスチックごみ対策実施枠組フォローアップ会合

10月8日～11日に、国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS）と共同で G20 資源効率性対話・G20 海洋プラスチックごみ対策実施枠組フォローアップ会合及び関連イベントを開催しました。

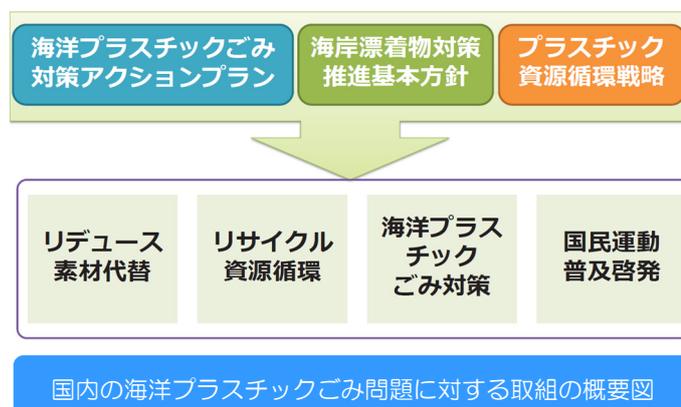
この会合では、6月のG20日本開催で合意したG20海洋プラスチックごみ対策実施枠組に基づき、第1回目の各国の対策・優良事例について報告・共有を行い、大阪ブルー・オーシャン・ビジョンの実現に向け、相互学習等を通じた対策・施策の推進を確認しました。

会合成果として、各国の対策・優良事例に関する報告書及び資源効率性に関するロードマップを策定するとともに、これらを含めた今後の取組等に関する議長サマリーを取りまとめました。

## (2) 国内の取組

### ア 全体計画の策定

令和元年（2019年）5月31日、我が国としての具体的な取組を「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」として策定しました。また、同日、「海岸漂着物対策を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針」の変更を閣議決定し、さらに、プラスチックの資源循環を総合的に推進するための「プラスチック資源循環戦略」を策定しました。



#### ① 海洋プラスチックごみ対策アクションプラン

海洋プラスチックごみ対策の推進に関する関係閣僚会議において、我が国としての具体的な取組を「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」として取りまとめました。まず、廃棄物処理制度によるプラスチックごみの回収・適正処理をこれまで以上に徹底するとともに、ポイ捨て・不法投棄及び非意図的な海洋流出の防止を推進することとしています。それでもなお環境中に排出されたごみについては、まず陸域での回収に取り組むとともに、一旦海洋に流出したプラスチックごみについても回収に取り組むこととしています。また、海洋流出しても影響の少ない素材の開発やこうした素材への転換など、イノベーションを促進していくこととしています。さらに、我